

羽区 新地

ふくしの和

題字 長澤 茂

第20号

発行 横浜市港北区
新羽地区社会福祉協議会
会長 中山 宏
編集人 長谷川武明
港北区新羽町 2200
☎ (541) 5578



「新年のご挨拶」

港北区長 石阪 丈一

新羽地区社会福祉協議会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

目ごろより、地域福祉活動において、皆様にはご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

貴会におかれましては、高齢者や障害者の日常生活をサポートする「ボランティア竹の子っぱ」が平成14年度の活動開始から2年経ち、また「子育てサロンたんぽぽにっば」の活動が1年を迎

えようとしています。新羽地区に住む人たちの手で自分たちの地域を安心してよりよく暮らせるための、地域福祉活動がますます発展することを心より期待しております。

昨今、子どもの虐待や、高齢者人口の増加を初めとして、地域社会における問題やニーズは多種多様化しています。しかし、個人の生活を第一とする意識の中では、地域でこれらの実態を掴むことは

「ふくしの和」 第二十号発刊を祝して

新羽地区社会福祉協議会 会長 中山 宏

この度「ふくしの和」第二十号を発行するにあたり、第一号発刊当時を振り返ってみました。平成三年四月に新羽地区社会福祉協議会が設立され、めでたく発足する事ができました。この発足を記念し地域の多数の方が希望、抱負等を持ち寄り、同年九月に第一回の出版となりました。年二回発行し

ていた時期もあり、社協の歴代会長さんを始め、編集委員皆様のご努力により今日を迎える事が出来ました。ここに、敬意を表し、併せて、御挨拶申し上げます。

近年では、紙面の充実をはかる意味から地域の小・中学校の先生方にも編集委員をお願いし、生徒の学校生活での感想文、又、障害

難しくなっています。こうした問題に取り組んでいく上では、市民と行政との自立した協働関係が求められています。港北区役所としまして、区民の皆様へのニーズを的確に把握した区政運営を目指して努力してまいりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。

本年も新羽地区社協のますますのご発展を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

新羽中学校三年 天野 枝里佳

助け合おう
現在と未来の社会のために

新羽中学校三年 塚田 祥太

「ダメだよ」が
犯罪ゼロの第一歩

新羽小学校六年 榎原 尚平

ちよつと待て

いいか悪いか考えて

新羽小学校六年 中澤 望

やっちゃん

自分の心で考えて

社会を明るくする運動入選作

これからも皆様のご協力を頂き新羽地区社協の発展はもとより「ふくしの和」の充実にも努めて参りますので、変らぬご支援ご協力をお願いいたします。

民生・児童委員

一斉改選

会長 松村 清見
副会長 小山 米子

各町内会、自治会の推薦により十二月一日厚生労働大臣から新羽地区民生・児童委員協議会には、十九名の方が委嘱されました。

向こう三年間、行政と地域とのパイプ役として、福祉の向上をはかるため、悩みをお持ちの方、困り事のある方、援助を必要とする方、子ども達もお年寄りも、誰もが地域の中で仲良く幸せに暮らすことが出来るよう、手助けとなるために頑張りたいと思います。

町会担当委員を紹介致します。

◎南 町内会 望月 俊一

◎中之久保町内会 望月 雄子

◎大竹町内会 小山 米子

◎中央町内会 小林美奈子

◎新羽町自治会 松村 清見

◎新羽町町内会 中山 明子

◎北新羽町内会 酒川 博子

◎主任児童委員 中丸 恵子

◎新羽町町内会 土岐 章臣

◎新羽町町内会 戸國 恵子

◎北新羽町内会 角岡智恵子

◎主任児童委員 鈴木ミツ子

◎新羽町町内会 森下 茂子

◎北新羽町内会 湯野喜美子

◎主任児童委員 萩原 正夫

◎新羽町町内会 永井 喜男

◎北新羽町内会 萩原 正夫

◎主任児童委員 飯島由美子

◎新羽町町内会 秋元 敏子

◎北新羽町内会 永井 喜男

◎主任児童委員 飯島由美子

◎新羽町町内会 秋元 敏子

◎北新羽町内会 永井 喜男

◎主任児童委員 飯島由美子

◎新羽町町内会 秋元 敏子

新羽地区社会福祉協議会

会長 中山 宏

相談役 塩山良三

副会長 金子米太郎

常務理事 柴田 周

理事 秋元 千代

理事 土岐 章臣

理事 中村 徳次

理事 長谷川 武明

理事 石原 三喜雄

理事 岩崎 和雄

理事 齊藤 一雄

理事 五藤 利哉

理事 小山 米子

理事 山口 久仁子

理事 小野 照男

理事 秋元 照男

理事 難波 候子

理事 鈴木 正敏

理事 大谷 佐一

理事 梅崎 健三

理事 永井 喜男

理事 萩原 正夫

事務局長 望月 俊一

事務局長 酒川 博子

事務局長 松村 清見

事務局長 中丸 恵子

事務局長 中山 利光

事務局長 長谷川 武明

事務局長 小山 米子

事務局長 上岐 章臣

事務局長 望月 要

事務局長 永井 喜男

事務局長 望月 俊一

事務局長 萩原 正夫

事務局長 川向 隆次

事務局長 石川 辰夫

事務局長 遠藤 昌一

事務局長 新羽小学校

事務局長 新羽中学校

事務局長 新羽小学校

事務局長 新羽中学校

事務局長 新羽小学校

事務局長 新羽中学校

ボランティア

「竹の子」の活動

ボランティア竹の子にっぽも発足して、三年目を迎えます。

発足以来、新羽地区の関係する皆様方のご指導、ご協力を得、「竹の子」も立派な「竹」に成長しました。

発足一年目は、未だ馴染みが薄く、依頼件数も少なかったのですが、二年目は各町内会等を通じて啓蒙活動を行った結果、依頼件数も徐々に増え、ほぼ毎日のように活動を行っています。

又、多種多様な依頼にも対応すべく、ボランティアメンバーの研修会も行ってきました。

活動内容は次のとおりです。

一、依頼者への実践活動

- ・話し相手、散歩
- ・病院の順番札取り
- ・植木の手入れ、草取り
- ・車椅子送迎・買い物
- ・ゴミ出し・室内の清掃
- ・犬の散歩 等です。

依頼件数の多いのは、「話し相手、散歩」、「ゴミ出し」等です。

最近では、癒しを求めて、犬を飼っているお年寄りの方が多く、「犬の散歩」の依頼が増えています。

二、ボランティアメンバー研修

介護実践講習会

(福祉用具の一工夫、高齢者の楽しくおいしく食事について)

- ・デイサービスの実習
- ・車椅子介助方法

研修会には、多くのボランティア

のメンバーが参加をしています。

三、広報紙の発行

より多くの新羽地区の皆様には、ボランティア竹の子にっぽの活動を知ってもらい、利用出来るように広報紙「ボランティア竹の子にっぽ」通信第一号を発行し、各町内会を通じて、各戸に配布を行いました。



蓮華寺前にて

あなたのまちの行政相談委員は

045-531-3972 小山 米子です。

このような場合ご相談を...



国の仕事などについて

- 苦情がある、困っていることがある
- こうしてほしい
- 苦情を申し出たが、説明や措置などに納得がいかない
- 苦情や困っていることなどについて、どこに相談してよいか分からない
- 手続・サービスなどの関係で制度や仕組みが分からない

などのことがありましたら、ご相談ください。

たとえば

- 年金、医療保険、老人保健・福祉
- 交通安全 ●雇用保険、労災保険 ●登記事務
- 道路 ●生活衛生 ●郵便・貯金・簡易保険
- 消費者保護 ●窓口のサービス

四、新羽散策

もっと新羽を知ってもらおうと新羽散策を計画、多数の参加がありました。

専念寺を出発し、神明さま、大

竹荒神社等経由して、中間地点の新横浜介護老人保健施設「カメリア」さんで昼食をとり、蓮華寺、光明寺、杉山神社、西方寺と五時間あまりの散策でしたが、幼児や車椅子の方もおられました。一人の落伍者もなく、参加者の方から、大変楽しかった。年二回位あっても良い等、好評でした。

これからの新羽地区にお住まいの皆様が、安心して自立した生活ができますように、お役に立ちたいと思っております。

気軽にお声をかけて下さい。

☆「竹の子」事務局

〇九〇一六七七九〇一四

受付時間 平日の十三時～十五時

車イスの貸出について

新羽地区社協では、車イスの貸出しをしています、近くの民生・児童委員にご相談下さい。使用料は無料です。



ご挨拶

港北区社会福祉協議会

事務局長 青木 邦夫

四月一日に港北区社会福祉協議会の事務局長になりました。

ご承知のように、介護保険制度の導入以来、福祉を取り巻く環境は、大きく変貌して来ております。

そのような中において、私も区社協の役割は、社会福祉資源の「開発（地域にどんなニーズがあるのかの把握）」「育成（福祉の担い手などをどうやって育て、発展させていくか）」「有機的連携（当事者や担い手のネットワーク化など）」を事業推進の基本とし、誰もが住み馴れた地域社会の中で、

新羽小学校に着任して

校長 長尾 静子

平成十六年四月、鶴見区の下野谷小学校より着任し、九ヶ月が過ぎました。前任者同様よろしくお願いたします。

今の子どもたちは、まちを歩いて情報を集めたり知りたい情報を探し出したりするなど、人とのかわりが減っています。学校では、地域に出かけたり地域の方に来ていただくいたりして、子どもたちが直にふれあい心に響く活動を増やしていきたいと思っております。

新羽の地域は子どもたちを地域で育てる意識が強く、皆様方の学校に対する熱い思いと温かなご支援を感じております。学校もそれに応えるべく邁進していきたいと存じます。

その人らしい暮らしができるよう、地域福祉の推進を図ることにあると考えております。

新羽町は、都筑郡新羽村に由来すると聞いておりますが、私は港北区内に勤めた経験や居を構えたこととありません。現在、移動にはなるべく自転車を使用し、土地勘を養うようにしております。

これからも、皆様方の力添えを頂きながら、一緒になって、諸事業を行って参りたいと考えております。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

神奈川県立新羽高等学校 校長 上遠野幸男

本年四月に木原前校長の後任として着任しました上遠野（かとうの）でございます。日頃より、本校生徒が地域の皆さまのお世話になり、大変ありがたく御礼申し上げます。

新羽は地域共同体としての活力がある地区と拝察しておりましたが、今夏の新羽フェスティバルに生徒・PTAとともに参加させて頂き、それを実感いたしました。今後とも、地域に開かれ、地域の皆さんに信頼され愛される学校づくりを目指し、鋭意努めていく所存です。本校の教育活動に対する絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

カメラリア訪問……

横浜市立新羽小学校

おじいさん・おばあさんに拍手をもらったよ！

介護老人保険施設「カメラリア」を訪問し、国語で暗記した「モチモチの木」の語りをさいてもらいました。合奏や踊りも披露し、たくさんの拍手をもらいました。

四年 菅原 稔彦

おじいさんとおばあさんたちが静かに聞いてくれたり、しっばいしても笑ったりしないでくれてとてもうれしかったです。

ぼくは用意するものを一つわすれてしまいあわてて取ったのに、笑わないし一言もしゃべらないで聞いてくれました。「れいき正しいおじいさんたちだなあ。」と思いました。

はずかしかったけど楽しくできました。

最後のおじいさん、おばあさんたちの歌は、とても上手でした。

またこんな機会があれば「カメラリア」に行きたいと思います。

四年 原田 夏海

おじいちゃんやちゃんと聞いてくれたけど、少しまちがえたりもしました。カメラリアに行く前は覚えるのがたいへんで、細かいところをおぼえまちがえたりして、「本番だいじょうぶかなあ。」と

思ったけど、今日はこれまでの練習のせいか、はつきり出せたと思います。

四年 朽木 優花

わたしは、一人語りでおじいさんに語ってあげました。

始めはドキドキしたけれど、おじいさんがやさしくせしめてくれたので、きんちょうもほぐれました。そのおじいさんは、耳がすぐく遠かったので、練習のときよりはっきり言いました。おじいさんは、聞こえなかったことをしつもんしてくれました。わたしは、大きい声で言い直しました。

さいごにおじいさんは、「こんなに長い文よくあんきしたね。上手だったよ。」とほめてくれました。わたしは、とってもうれしかったです。

「カメラリア」は、とても楽しかったです。また、こんなきかいがあれば行きたいです。



四年 佐藤 よもぎ

まちがえたり、ドキドキして、わかんなくて、止まっちゃったけどなんとか続いてよかった。ちょっとまちがえて、「あっ、まちがえちゃった。」と思って止まりそうになったけど、続けてできた。うれしかった。

あと、合奏では音楽にまけないで声を出せた。自分でもすごいなあ、と思うてうれしかった。またカメラリアに行きたい。

「私の福祉体験」

新羽中学校3年 橋本 那音

私は福祉体験で、新吉田地域ケアプラザの「もみじの会」に参加しました。

最初は緊張しました。初めの仕事は、車いすの方を会場まで車いすを押していく仕事です。車いすを押すことは慣れていない上、気を遣う必要があるのでなかなか難しいものでしたが、無事できたときは、「よかった」と思いました。その方も目でお礼を言ってくださってうれしかったです。

午前は七夕の飾り付けです。飾りを折り紙で作り、笹に付けていきます。少々戸惑いはしましたが、最後は立派な七夕飾りを作ることができました。

昼食後、お年寄りの人といろいろなことを話しました。そしてそのとき、『ここに、若いボランティアの人が来るだけで、お年寄りの方々は楽しんでくれる』ということに気がついたのです。これもボランティアの重要な意味の一つではないでしょうか。私は、この体験でたくさん学ぶことができました。中でも、ボランティアは、心だけでなく「和む」ことも必要であると知ったことは、もっとも大切な学習でした。

「新羽幼稚園に行つて」

新羽中学校3年 茂呂 愛美

私たちは、福祉ボランティア体験で新羽幼稚園に行きました。今回は、年長さんの先生というお仕事体験させていただきました。

この体験を通して私たちは、子どもたちと触れあう楽しさと喜び、難しさと辛さ、そして責任の重さを学ぶことができました。素直でとても元気な子どもたちと話し遊ぶことは本当に楽しくてあつという間に時間が過ぎていきました。

しかし、園児ひとり一人をよく観察し、あぶない事をしていないか、独りぼっちになっていないかなどを見ることは、思っていたより大変でした。

小さい頃の養育は、これからの成長に大きく影響するので、先生たちは、何を教え、何を手伝い、何を自分でやらせるのかを考えて行動しなければなりません。それは、決して容易なことではないと思います。そのようなことを考えると、幼稚園の先生というお仕事は、とても大変で、「子どもたちを預かる」という大きな責任を伴った、大切なお仕事なのだという事がわかりました。

仕事の中で、大変でないもの一つもないと思うので、自分たちの仕事は、ゆっくり、じっくり考えて行きたいと思います。



高齢化社会へ向けて

新羽高校3年 石井 あか理

最近、バリアフリーという言葉をよく目にするようになった。スロープの設置や段差をなくすなど今なりつつある高齢化社会へ向けての準備の一つである。しかし、これだけの改善でお年寄りに生活しやすくなるのだろうか。

核家族化が進んでいる今、一人暮らしのお年寄りに対する心のケアや介護問題にもっと重点を置くべきだというのが私の考えだ。

私たちは、料理をし、掃除をし自分のことは自分でできる。しかし、高齢になるとそうもいかず、立ち上がるのもひと苦労、かといって老人ホームには入りたくないという人が増えているようだ。見知らぬ人との共同生活に不安を感じているのだろう。

ふと、昔の人々のことを考えてしまう。今ほど技術は発達していなかったが、お年寄りがやっかい者扱いされることや、問題視されることになかった。その理由の一つには、大家族、三世代が一緒に暮らしていたことがあげられる。

さらには、地域の連帯、近所の付き合いが深かったということも考えられる。家族、知人に囲まれた豊かな社会が昔はあったのではないだろうか。設備の充実は大切である。しかし、昔のような人と人とのつながりを濃くしていくことが明らかな高齢化社会を迎えるためには必要なのではないだろうか。

お願い!!

「JAM-O番の家」表示板を掲示してください。方をさがしています。

連絡先 事務局 新羽中

TEL 五四三一一六八〇

すばらしい子どもたち

新羽高等学校三年 森永 朋

三年生の夏休み、私は初めて地域のボランティアに参加しました。そこは知的障害を持った子どもたちのボランティア団体でした。

その日は水族館へ遠足に行く野外イベントでした。子どもたちにとっては楽しいイベントでもあり、また身体にも負担がかかる遠出でした。電車の乗り換えの煩わしさや、電車を降りても、歩かなければなりません。子どもたちも疲れて寝てしまったり大変な遠出でした。

しかし、水族館に着いた途端、子どもたちはニコニコ笑顔になり走り回る程になりました。見たことのない魚や、イルカショーを笑顔で見る子どもたちを見てるとさっきまでの疲れもどこかへ行ってしまったくらい、嬉しい気持ちになりました。

障害児でも健常者でも、コロコロと表情を変えてしまうところはどこも変わらないのでは、と思いました。子どもは笑ったり、怒ったり、困ったり、……いろんな顔を見せてくれます。手足が不自由だって、脳に障害があったって、耳が聞こえなかったって、同じ人間なんだ、と再確認できた一日でした。



新羽大竹遺跡「長壁」
(新羽高校提供)

ナーシングプラザに行つて思ったこと

新田小学校四年 門田 拓也

ナーシングプラザに行つて思ったことがいっぱいありました。

まず一つは、おばあちゃんやおじいちゃんでも、年の高い人がいっぱいいて、とてもにぎやかな人もいっぱいでした。もう一つは、おばあちゃんやおじいちゃんが、とても、よくよくこんでくれて、とてもうれしかったです。なかには泣いている人もいました。

ぼくはマジックをやりました。マジックは、一回目は、せいこうしました。でも、もう一回といわれてやったら失敗しました。でも、とても楽しかったです。

帰り道、ごとう先生が「今日泣いていた人は家族とはなれてくらしでいて、ぼく達を見ると思いたいで泣いちゃってたんだよ」と言われて、とてもかわいそうでした。

最後に、全員で歌った「里の秋」は、とても楽しかったです。

カメラIAに行つて

新田小学校四年 中山 奈美

わたしはカメラIAにいって二つのことをしました。

一つ目は、新田ソーランをおどりました。わたしは、新田ソーランを一番前でおどり、おじいちゃんおばあちゃんがよろこんでくれるだろうかとドキドキしました。

「ヤー」といっておじいちゃんおばあちゃんがかくしゅをしてくれました。とてもうれしかったです。二つ目はプレゼントをわたしました。

わたしは、かみテープで星を作りました。「こんなよろこんでくれるかなあ」とわたしまでわくわくどきどきしました。わたしときとでもうれしかったです。「よろこんでもらってよかったなあ」カメラIAに行つても楽しかったです。

次はおじいちゃんやおばあちゃんといっしょにゲームなどやりたいです。

ケアプラザで交流

新田小学校四年 川島 萌子

今日は、お年よりやしょうがいをもっている人がかよっている、ケアプラザに行ってきました。

ケアプラザは、お年よりが楽しくするところでした。デイサービスとして、車での送りむかえをしょく員の人が、お年よりの家までしてくれるサービスなどもありました。しょうがいをもっている人は、居住とうというところに住む人もいます。そして「すめるんだな」と思いました。居住とうもドアが自動なのもあるし自分で開くドアもありました。居住とうの近くに公しゅう電話があつて、そのとびらも、ボタンをおすだけでひらくしくみでした。私は、車いすをおすことになりました。車いすには、ひかりさんがのって、車いすをうごかしました。うごかすのはちょっとむずかしかったです。ケアプラザは、お年よりにとってすこいところだなと思いました。



子育てサロン

「たんぼぼにっば」
主任児童委員 飯島 由美子

初めまして「たんぼぼにっば」です。「たんぼぼにっば」は、女性民生委員、主任児童委員、保育士、子育て支援の方、子育て中のママさんが、スタッフの中心となって、地域社会の育児サポートとして活動しています。

「どうして、子育てが地域で必要なの？」と思われる方もいらっしゃると思います。

いま、新羽地区は乳幼児数が、港北区内で一番多く、これからも若い核家族が増えていくという現状、虐待、子育て放棄などの社会情勢の中で、子育て中のお母さんが育児に関し自由に話せる場、ほつ



七夕の飾りつけ

とできる時間など、地域社会でのサポートの必要性を強く感じています。そこで、地域ケア連絡会で提案、検討し、新羽地区社協で、子育て部門を立ち上げることになりました。

新羽社協、地区ケア連絡会、連合町内会のご協力、応援のもと、五月より活動を行うことができ、初回から八十名近い親子の参加が

あり、スタッフ一同、うれしい声がありました。

「たんぼぼにっば」は毎月第二火曜日、中之久保会館で、手遊びや簡単な創作遊びなどを取り入れ、スタッフ一同、準備に追われながらも、童心にかえて頑張っています。未就園児をお持ちのお父さん、お母さん、たんぼぼに気軽に遊びに来てみませんか？

また、「たんぼぼにっば」では一緒に協力して頂けるボランティアの方を募集しています。気軽にのぞいて見て下さい。

期せずして、二つの賞状を頂いた。一つは県から社協に、もう一つは市から新羽高校に、頑張った努力の賜物です。紹介します。



20号集

「ふくしの和」をふりかえって

…都筑から横浜へ…

新羽地区民協元総務

西山 登

昭和十二年旧都筑郡が横浜市に編入されて港北区となった。面積は市の三分の一を占めていたがまだ田畑が多い農村地帯で狐狸が出さうな山里もあってここが横浜かと笑われた。戦前に今の民生委員と同じ仕事をしてた人を方面委員と言った。主に村の顔役の名譽職であったから人々の記憶には残っていない。

戦争が終り間もなく発足した民生委員は戦時中の強制疎開で親戚や知人を頼って住みついた人達の救済が主な仕事となった。昭和二十年代は戦後処理の一翼を担っていた訳である。世の中が落ち着いてきて高度成長期に入り新幹線の開通、港北ニュータウンの施行で一層拍車がかかった。その後港北も四つに分区された、この下で幾人の民生委員が活動しているのだろう。しかし分区の一つに都筑の名を残したことは意義深い。

内会館であり、委員は十人位でした。テーマを何にするかを検討し、誰に寄稿を依頼するかを決めお願いに上ります。だいたい心よくお受け頂きました。集めた原稿を会議で読上げ、掲載する写真等と紙面の配置を考慮し、ゲラに廻します。数日後又会議を持ち、句読点誤字、脱字等を精査した上で必要部数の印刷を注文します。

当時は四千枚でした。そして各家庭や事業所等へ配布して一応この事業は終わります。夜間二時間位の会議を何回も重ねての上でホット致します。貴重な原稿を活字にして皆様に読んで頂ける喜びを、編集委員一同陰ながら味わって居りました。

遠い想いでの一頁を懐かしみ筆をとらせて頂きました。どうぞこれからも「ふくしの和」を温かく見守って下さい。社会福祉協議会の益々のご発展を御祈り致します。

○新涼や庭一ぱいに伸びをする
○故郷は徐々に変わり秋の声

ふくしの和 二代目編集長
中村 丈之

もう十年位前のこととなります。編集の一員として私が加えて頂きました。町会からの推薦でした。第一回の編集会議が中之久保町

新羽地区社会福祉協議会
前会長 柴田 周

新羽地区社協の会長を僅かな期間ではありますが担当いたしました。今まで付き合いの少なかった福祉の仕事に専念する人々、又民生委員その他のボランティアとして活動する人々の中に、私の予想

を越える考え方の人が居り、この人達の意見に接して私自身、一回りも二回りも成長出来たように感じました。

又幸運に感じている事に、私の任期中に新羽地区社協の十周年を迎え記念事業を実施出来ました。

特に印象に残るのは社協は如何にあるべきかということ。各地区的社協には、上部団体としての社協があり、住民からの貴重な拠金も、この組織を通して各慈善団体に配布され活動資金となりますが、新羽地区社協としての独自性を求め話し合いを深めることが出来ました。現中山会長の努力により、新羽地区社協独自の「竹の子にっば」が誕生しました。新羽の助け合い活動の発展を期待して筆をおきます。

「ふくしの和」をふりかえって

新羽地区民生・児童委員会
会長 松村 清見

文字通り福祉に関する広報活動です。町内の皆様に「ふくしの和」に親しみを持って頂かなければなりません。しかし年一度の発行です。で、なかなか目に留まる事が無く、見過ごされる事が実情のようです。年々代わる委員にお聞きしても、広報紙が発行されている事を知っている人は少ないのです。そこで皆様に関心をもち頂くため、多くの人に、年令層も広げ、区長さんが、校長先生が、隣のおじさんが、おばさんが、生徒が、児童が等身近な皆様に話題を選択して、原稿依頼致しました。文

社協研修会に参加して

北新羽町内会副会長 西山憲一郎

去る七月一日に、私は新羽地区社会福祉協議会の「視察研修会」に参加し、東京・町田市に在る、知的障害者通所授産施設「花の家」を訪問する機会を得ました。

視察当日は予定より早く「花の家」に到着した為、利用者の作業はまだ始まって居らず、スタッフの皆さんが、一日の仕事の段取りと、利用者が柔軟体操、準備運動をしている所でした。そのすぐ脇を通して施設の見学に進む私達に、スタッフ・施設利用者の方々が「こんにちは」「あついですね」と本当に明るく、素直に声を掛けてくれて私達もごく自然に「本当、あついで、頑張つてね」等と会話の交流が出来、比処に来て仕事をしている利用者、そしてそれを助



陶器製造ルームにて

本当に利用者の気持ちになって考え方を柔軟に、全ての事に素直に取組む姿勢がないと出来ない事だとおもいました。

最後に「花の家」の利用者・スタッフの皆様が人間的に非常に大きく心の豊かな人々で有る印象を強く感じた事をお伝えして、私の報告を終らせて頂きます。

けるスタッフの全員が充実感を持ち、生き甲斐を感じて明るく楽しく毎日を過ごしている様に思われました。

その後には陶業と園芸の作業所を見学させて頂き、陶器の製造においては成型作業の過程や機械にスッチを入れる時、そして園芸においては鉢の給水作業、土の入れ替え作業等一般にはごく自然に出来る作業が「花の家」の利用者には大変難しい作業なので、それがスムーズに実践出来る様スタッフの人達が創意工夫・研究の後に実現した様々な道具も見せてもらいました。

